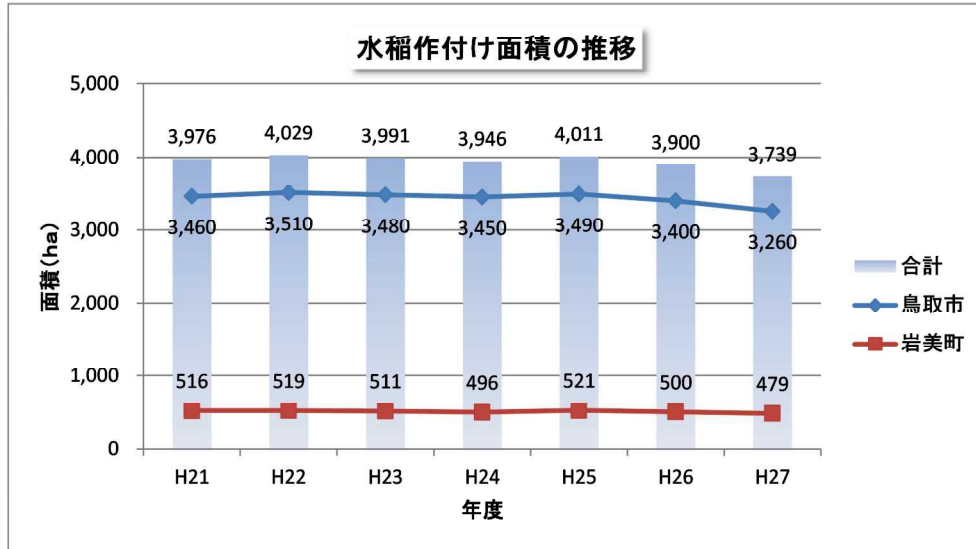


IV 主な農畜産物の生産、販売状況（※出展記載が無い場合は JA 鳥取いなば調べ）

1 水稲

(1) 作付面積

H27 作付面積は H26 に比べ減少した。その減少幅は近年では大きかった。

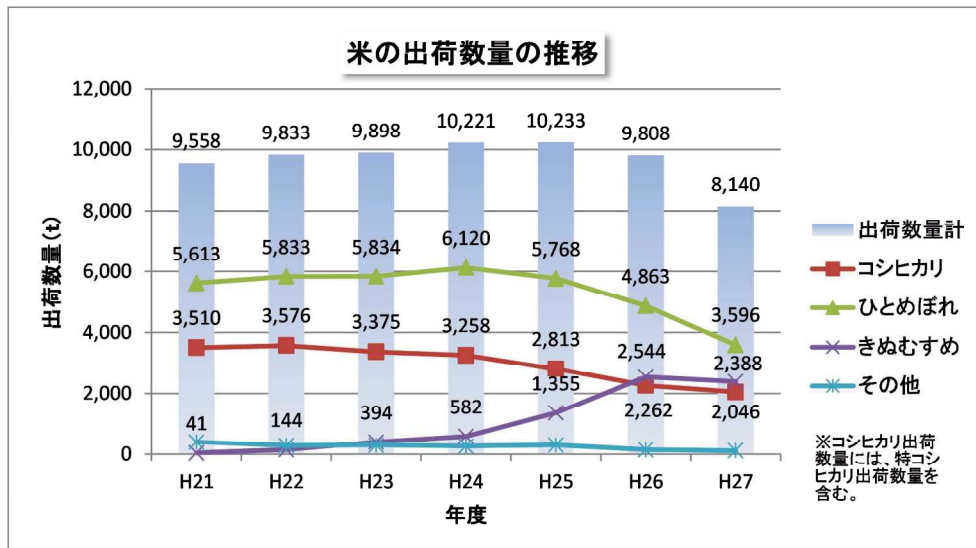


(鳥取農林水産統計年報調べ)

(2) 出荷数量

①H27 出荷量は 8,140 トンと前年対比 83%と大きく減少した。

②ひとめぼれの割合が大きく低下する一方、中生良食味品種であるきぬむすめの割合が増加している。



(鳥取農林水産統計年報調べ)

(3) トピックス

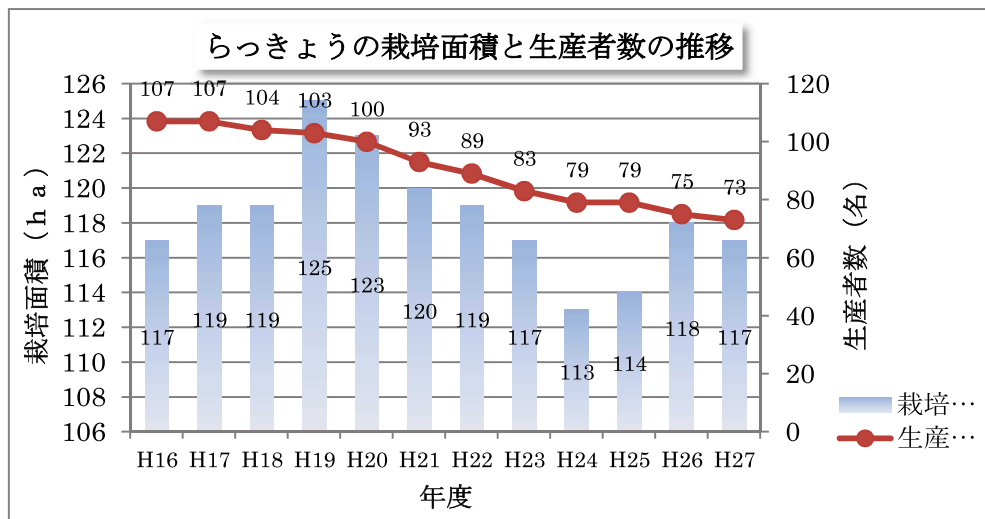
①JA 鳥取いなばの概算金からみる H27 米価は H26 対比で約 8%アップしたものの、H25 対比では約 8%ダウンであり、依然として稲作経営者にとっては厳しい状況にある。

②H27 県産きぬむすめは 3 年連続して、日本穀物検定協会の食味ランキングで最高ランクの特 A を取得した。

2 らっきょう

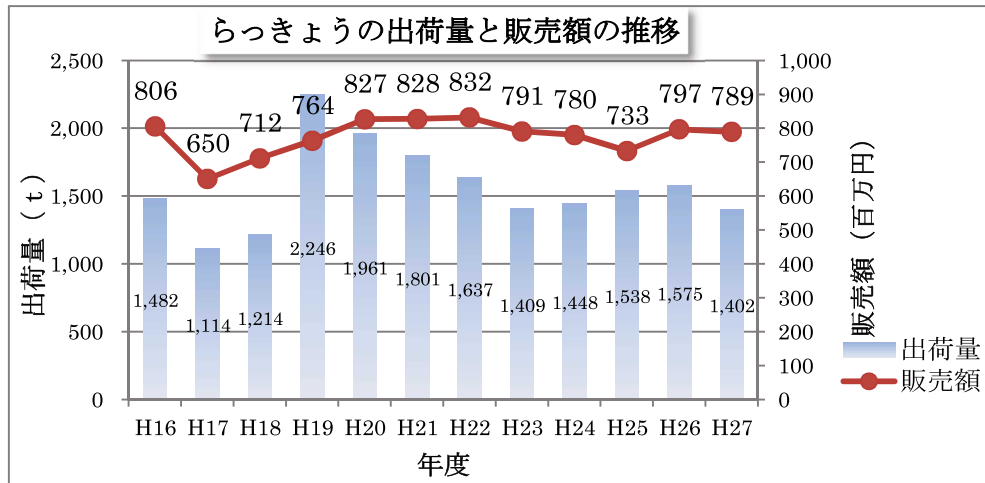
(1) 栽培面積・生産者数

- ①鳥取市福部町で栽培されている「砂丘らっきょう」は、県内の栽培面積の約6割を占める。
- ②生産者数は減少しており、H27の生産者は10年前の約70%となっている。栽培面積は平成19年をピークに減少傾向にあったが、近年持ち直している。



(2) 出荷量・販売金額

- ①H27出荷量は4月下旬～5月上旬の高温干ばつ等の影響で小玉なり、H26対比で11%減となった。一方、販売額は単価が昨年より高かったことから、出荷量減少の影響が緩和され昨年と同等となった。



(3) トピックス

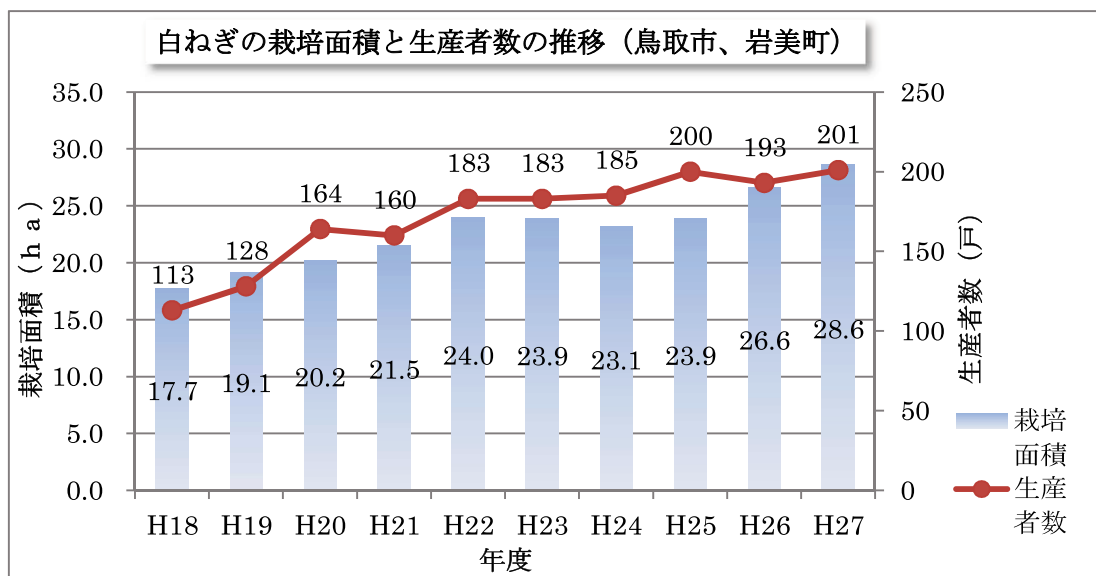
- ①平成28年3月に農林水産省より、鳥取市福部町内の鳥取砂丘に隣接した砂丘畑で栽培したらっきょうを「鳥取砂丘らっきょう」、「ふくべ砂丘らっきょう」として地理的表示(GI)登録された。国内で11件目の登録となる(GI保護制度は地域で長年育まれた特別な生産方法で高い品質、評価を獲得している農林水産物・食品を品質基準とともに国に登録し保護する制度)。

3 白ねぎ

(1) 栽培面積・生産者数

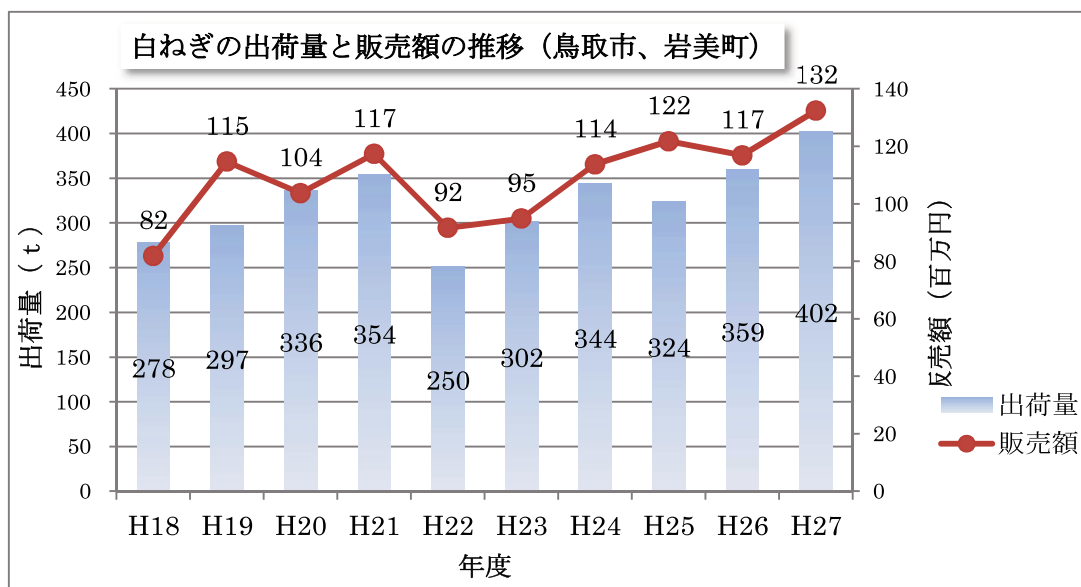
①H27 生産者数は 201 名となり、過去 10 年間前ではもっとも多かった。また、栽培面積も 28.6ha と過去 10 年でもっとも大きかった。

※平成 21～25 年度、JA 鳥取いなばの主体でチャレンジプラン支援事業を活用し管理機、皮剥機等機械のリースを実施した。平成 26 年度からは JA 鳥取いなばの主体で地域プラン事業に取り組み、育苗ハウスの増棟や移植機等の機械リースを実施中である。



(2) 出荷量・販売金額

①H27 出荷量は 402t と過去 10 年の最高値を示した。また、販売額も同様に 132 百万円と過去 10 年でもっとも高い販売額となった。



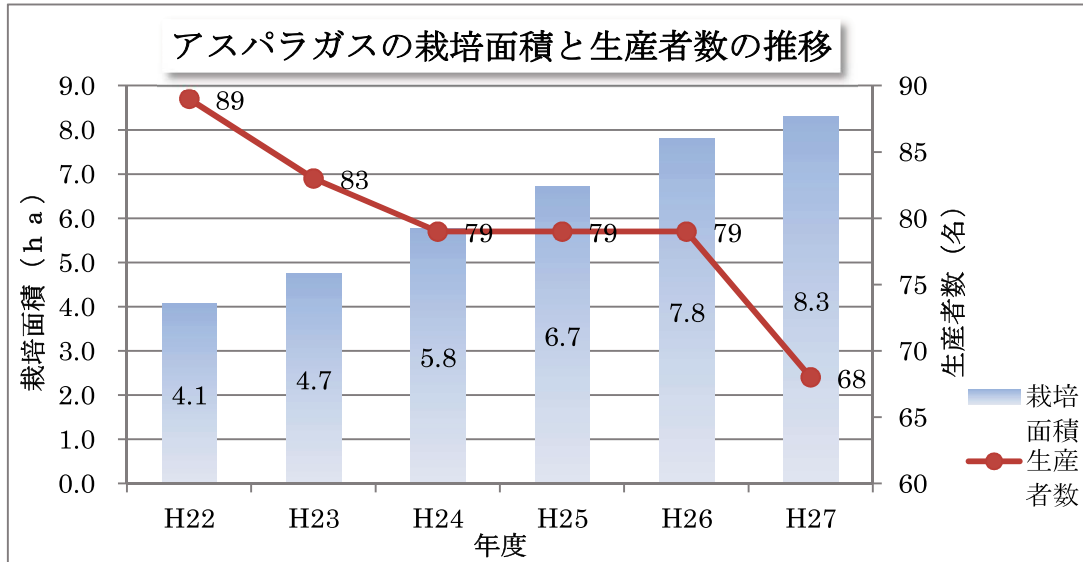
3) トピックス

①JA 鳥取いなばが関係機関と協力し「白ねぎ倍増プラン」を H25 年度に策定した。栽培面積を H25 実績の 42 ヘクタール（八頭管内含む）から H30 には 80 ヘクタールへ倍増する計画としている。

4 アスパラガス

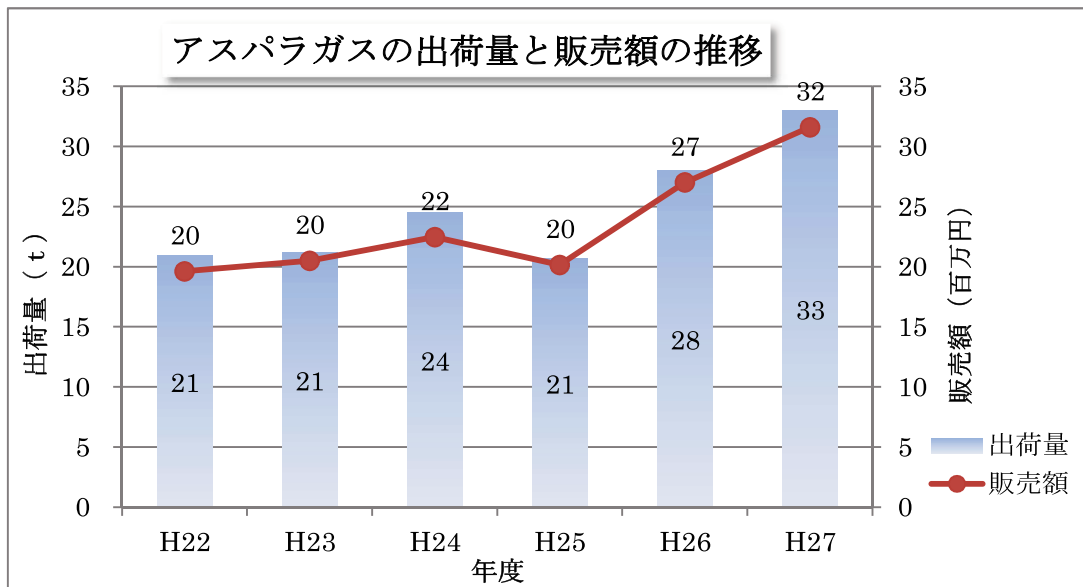
(1) 栽培面積・生産者数（八頭管内含む）

①栽培面積はH22以降、毎年増加しH27は8.3haとなった。一方生産者数は減少傾向にあり、H27はH22以降もっとも少ない68名となった。



(2) 出荷量・販売金額（八頭管内含む）

①H27の出荷量は33tで、H22以降もっとも多かった。また販売額もH22以降でもっとも高い32百万円となった。



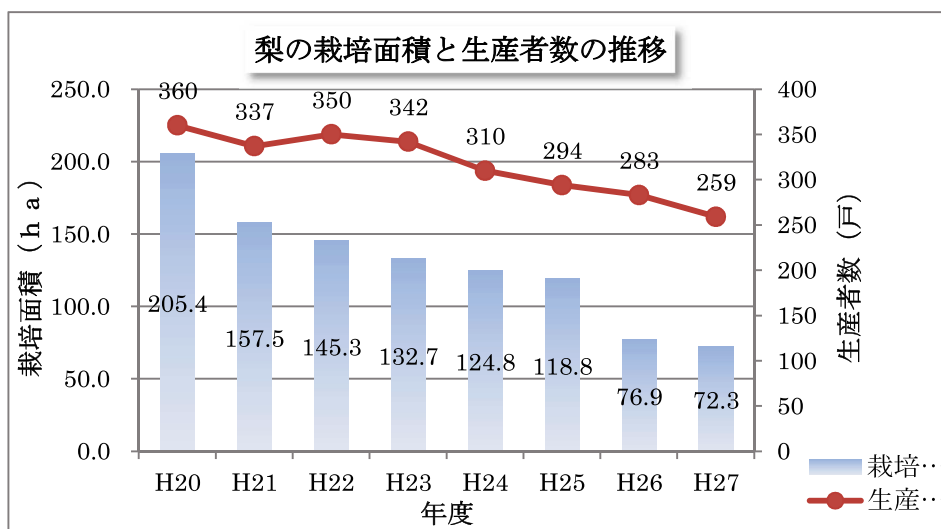
(3) トピックス

①らっきょう、白ねぎに次ぐ特産品としてアスパラガスを育成するため、JA、県、市町からなるプロジェクトチームをH26に設置した。このプロジェクトの一環として、H28年2月に「JA鳥取いなばアスパラガス振興プラン」が策定された。

5 梨

(1) 栽培面積・生産者数

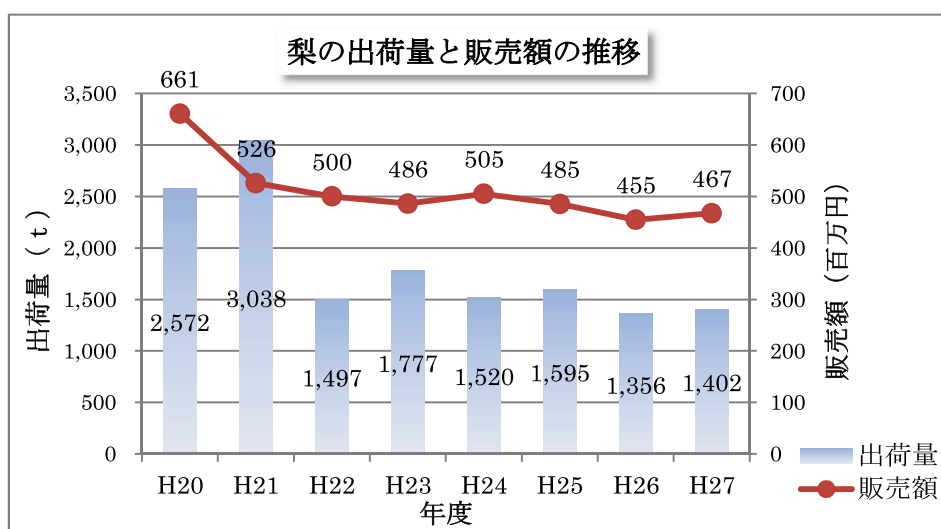
①栽培面積、生産者数とも毎年減少している。平成27年度の栽培面積、生産者数とも過去最低を記録した。



(2) 出荷量・販売金額

①平成27年度の出荷量、販売額とも前年対比で約3%の増となった。

前年に比べ栽培面積が減少している一方で販売額が増加した理由は、販売単価の高い新甘泉などの新品种への転換が進んだことが原因している。



(3) トピックス

①現在、二十世紀梨が主流であるが、新甘泉を中心に新品种の導入が進んでいる。

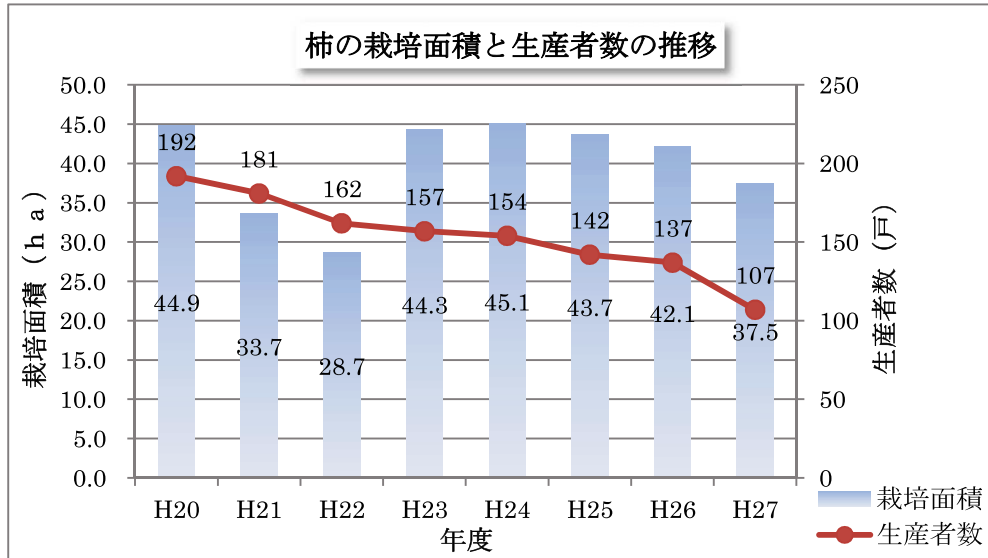
	H18~H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
新品种苗木本数	536	1,002	1,041	3,862	1,589	682	8,712
うち新甘泉	306	645	527	2,393	947	521	5,339

※JA鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

6 柿

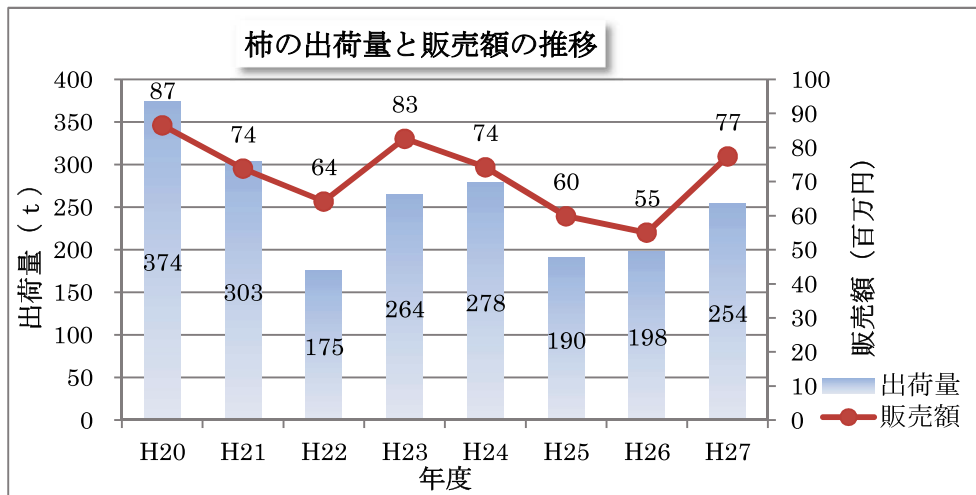
(1) 栽培面積・生産者数

①H27は前年と比べ、栽培面積で約10%、生産者数で約20%と大きく減少した。これは単価の低迷に加えH26年4月に発生した大規模な霜害など販売および生産環境の不安定さが影響していると考えられる。



(2) 出荷量・販売金額

①H27は前年と比べ出荷量で約30%、販売額で約40%と大幅に増加した。この理由としてH26は霜害、H25は軟化落下等の影響を受けた一方で、H27は収量に影響する大きな障害がなかったことが考えられる。



(3) トピックス

①現在、富有、西条柿が中心であるが、収量、品質、販売単価の高い新品種「輝太郎」の植栽を進めている。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
輝太郎苗木本数 (本)	264	937	387	277	712	619	713	3,909

※JA鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

7 乳用牛

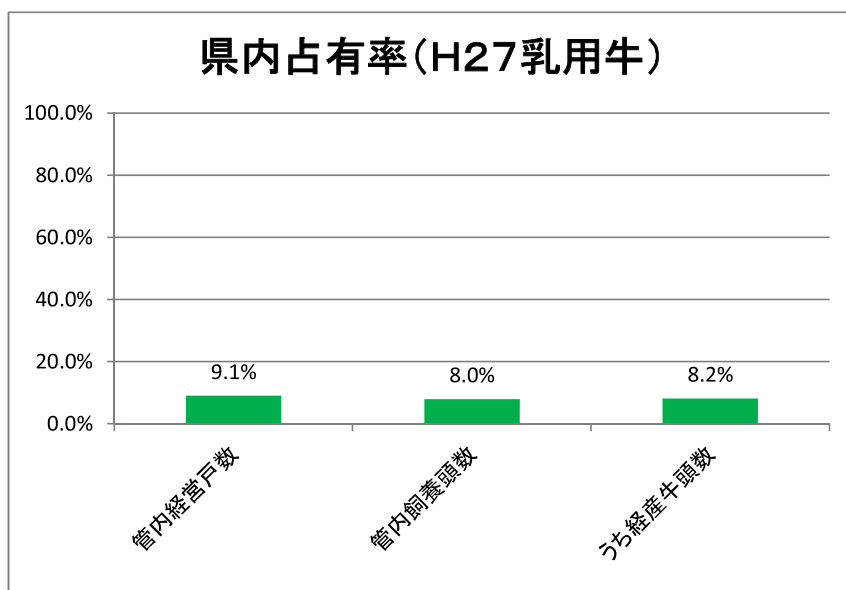
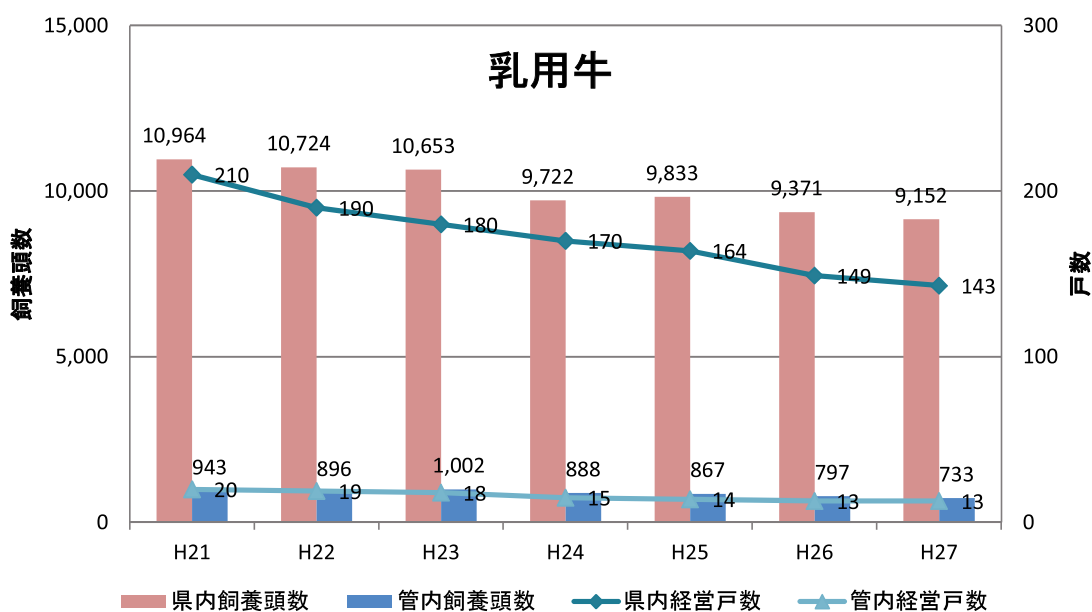
酪農経営においては、戸数は昨年と変化なく、全県の10%弱を占め、飼養頭数でも8%程度を占める。

乳用牛

(単位:戸・頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	前年比	県内占有率
管内経営戸数	20	19	18	15	14	13	13	100.0%	9.1%
管内飼養頭数	943	896	1,002	888	867	797	733	92.0%	8.0%
うち経産牛頭数	687	693	627	610	602	541	504	93.2%	8.2%
県内経営戸数	210	190	180	170	164	149	143	96.0%	
県内飼養頭数	10,964	10,724	10,653	9,722	9,833	9,371	9,152	97.7%	
うち経産牛頭数	7,139	6,911	6,658	6,679	6,623	6,298	6,144	97.6%	

資料:県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



8 肉用牛

繁殖経営は全県で17戸減少し226戸(243戸)、飼養頭数もやや増加し2,849頭(2,707頭)。管内では1戸減少し9戸(10戸)。

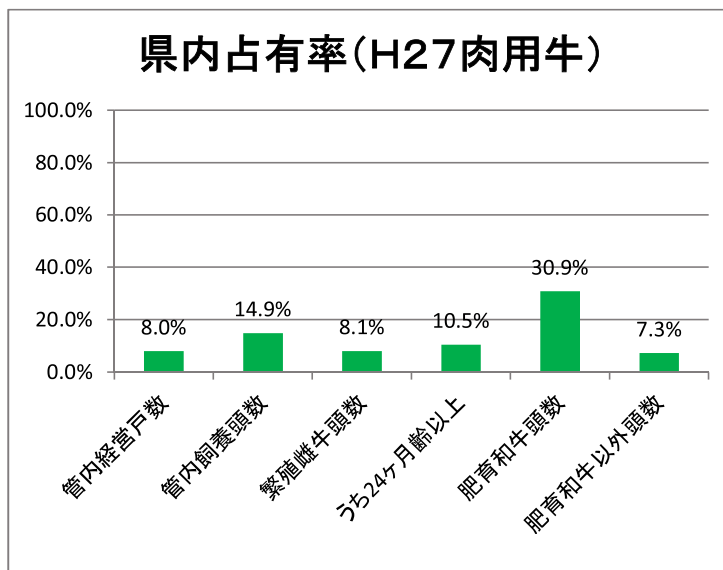
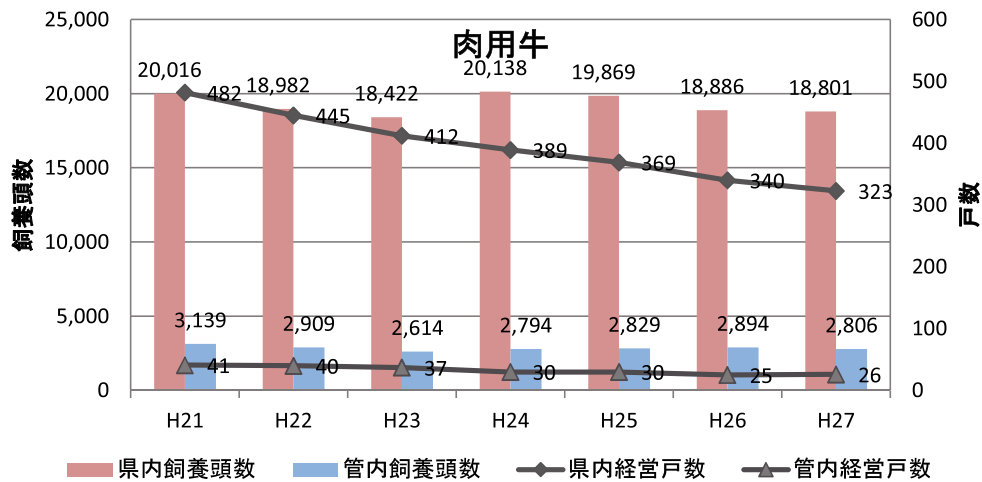
一貫経営は全県で5戸増加し46戸(41戸)、飼養頭数は増加し5,692頭(4,876頭)。管内は1戸減少し7戸。

肥育経営は全県で5戸減少し49戸(54戸)、飼養頭数は減少し9,822頭(10,643頭)。管内では3戸増加し10戸。

肉用牛

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	前年比	県内占有率
管内経営戸数	41	40	37	30	30	25	26	104.0%	8.0%
管内飼養頭数	3,139	2,909	2,614	2,794	2,829	2,894	2,806	97.0%	14.9%
繁殖雌牛頭数	393	365	373	344	353	359	329	91.6%	8.1%
うち24ヶ月齢以上	358	323	314	241	250	288	273	94.8%	10.5%
肥育和牛頭数	1,881	1,697	1,694	1,781	1,854	2,024	1,849	91.4%	30.9%
肥育和牛以外頭数	861	737	550	669	622	511	628	122.9%	7.3%
県内経営戸数	482	445	412	389	369	340	323	95.0%	
県内飼養頭数	20,016	18,982	18,422	20,138	19,869	18,886	18,801	99.5%	
繁殖雌牛頭数	3,265	3,160	3,141	4,156	4,246	3,981	4,062	102.0%	
うち24ヶ月齢以上	2,904	2,728	2,827	2,585	2,559	2,452	2,592	105.7%	
肥育和牛頭数	7,727	6,969	7,295	6,639	6,626	6,570	5,991	91.2%	
肥育和牛以外頭数	9,024	8,743	7,986	9,343	8,997	8,335	8,593	103.1%	

資料：県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



9 豚

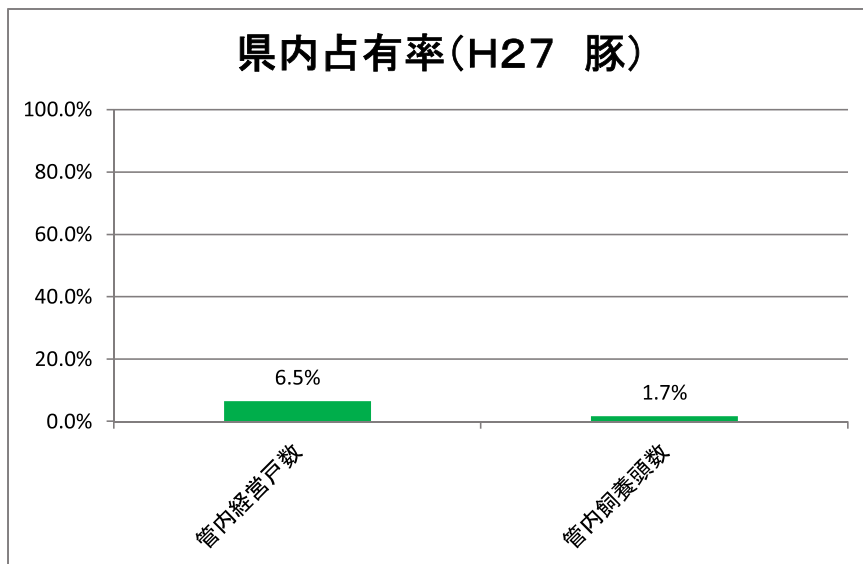
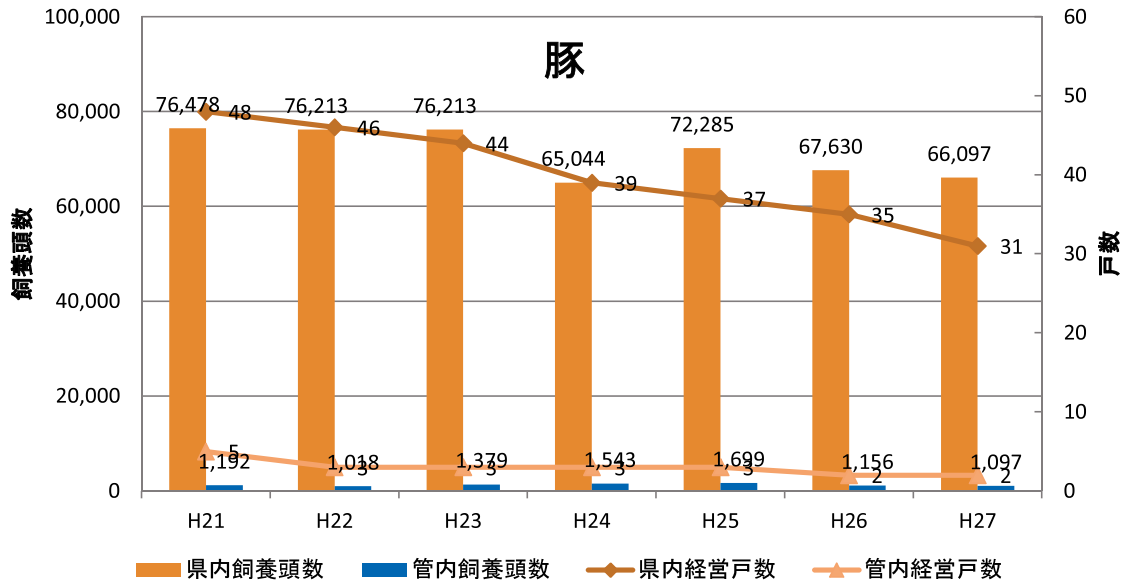
経営戸数は全県で4戸減少し、飼養頭数も減少。管内は戸数は変化なく、飼育頭数は若干減少。

(単位:戸、頭・羽、%)

豚

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	前年比	県内占有率
管内経営戸数	5	3	3	3	3	2	2	100.0%	6.5%
管内飼養頭数	1,192	1,018	1,379	1,543	1,699	1,156	1,097	94.9%	1.7%
県内経営戸数	48	46	44	39	37	35	31	88.6%	
県内飼養頭数	76,478	76,213	76,213	65,044	72,285	67,630	66,097	97.7%	

※管内は鳥取市及び岩美町



10 鶏

採卵経営においては、全県で戸数は変化無かったが、飼養羽数は増加。管内では県内飼養採卵鶏の70%弱を占め、大規模経営体が目立つ。戸数は横ばいの5戸で飼養羽数は増加。
 肉用鶏については、全県で変化なく、飼養羽数は増加。管内飼育戸数は1戸減少し、地どり農家で飼養羽数は大幅増加。

(単位:戸・頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	前年比	県内占有率
管内経営戸数	5	5	6	7	7	7	6	85.7%	7.1%
管内飼養頭数	484,171	459,291	447,882	435,253	407,811	423,740	416,690	98.3%	11.0%
うち採卵鶏羽数	484,051	458,503	446,303	434,291	406,013	420,780	408,690	97.1%	67.7%
うち種鶏羽数	0	0	0	0	0	0	0	-	0.0%
うち肉用鶏羽数	872	788	1,579	962	1,798	2,960	8,000	270.3%	0.3%
県内経営戸数	93	87	86	85	83	85	84	98.8%	
県内飼養頭数	3,245,149	3,065,730	3,645,761	3,563,744	4,020,286	3,743,239	3,791,418	101.3%	
うち採卵鶏羽数	723,632	686,322	667,162	648,059	599,084	615,799	603,936	98.1%	
うち種鶏羽数	130,500	119,500	144,900	150,220	145,597	143,866	143,881	100.0%	
うち肉用鶏羽数	2,375,772	2,259,908	2,833,699	2,765,465	3,275,605	2,983,574	3,043,601	102.0%	

資料:県畜産課調べ
 ※管内は鳥取市及び岩美町

